

適正咬合の獲得と アンチエイジング

森蔭由喜

モリカゲ歯科医院院長

咬合疾患と咬合異常

咬合が異常で発現する疾患は、
顎口腔領域だけではなく全身におよぶ場合もある。

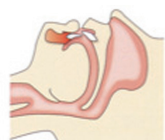
□ 症状として顎口腔以外では、全身に及び、頭痛、肩こり、視力障害、腰痛、膝痛不良姿勢、頸腕症候群、めまい、耳鳴り。また、耳鼻咽喉科領域の異常、内分泌障害、うつ、不定愁訴などがある。



□ 顎口腔、歯列・歯冠では、外傷性咬合、ブラキシズム、歯列不正、異常咬耗、補綴物の脱離、破損、義歯の不適、三叉神経領域の疼痛がある。顎関節では、顎関節症。
原因として、〈歯牙〉では、歯の咬合形態と咬頭勘合状態、歯列不正、不良補綴物、欠損。〈顎骨〉では、変形。〈顎関節〉、変形、位置異常。〈筋、歯根膜、神経〉では、内科的疾患、炎症、損傷、緊張、疲労がみられる。
□ その治療法として、〈歯牙（歯列・歯冠の形態）〉では、歯冠修復、補綴治療、欠損補綴、咬合調整、歯列矯正。〈顎骨〉外科処置。〈顎関節〉外科処置、スプリントをおこなう。

原因

- ①不適切な顎位
- ②不正咬合
- ③口腔内容積の減少



正常呼吸時
気道が開通した状態



いびき発生時
気道が狭小化し、軟口蓋が振動している状態



無呼吸時
舌根が下下し、気道が狭小化することにより、口蓋垂が下咽頭へ吸い込まれ、喉頭後壁と舌根との間に挟まれ閉塞した状態

正常呼吸、いびき、無呼吸時の上気道の状態

咬合と睡眠時無呼吸症候群との関係
睡眠時無呼吸症候群とは
(obstructive sleep apnea syndrome : OSAS)

□ その治療法として、〈歯牙（歯列・歯）〉①睡眠中の無呼吸や低呼吸の繰り返しにより、低酸素血症、胸腔内圧の変動、睡眠の分断などが起こり、日中の眠気、頭痛、集中力低下などの症状により生活の質（QOL）を低下させる。
□ 高血圧症や代謝異常、メタボリックシンドロームの発症に関与し、心血管障害や脳血管障害の危険因子となる全身性疾患である。

■ 睡眠障害のなかの睡眠時無呼吸症候群 (obstructive sleep apnea syndrome : OSAS) 睡眠時無呼吸症候群（百七種類ある睡眠障害の一つ）
□ 中枢性睡眠時無呼吸症候群。胸・腹部の呼吸運動自体が停止する無呼吸（重度の心不全や脳卒中後患者）。口腔内装置 (oral appliance : OA)

の対象ではない。

□ 閉塞性睡眠時無呼吸症候群

上気道が閉塞し胸・腹部の呼吸が弱くなる。口腔内置(oral appliance : OA)の対象である。

■睡眠時無呼吸症候群の病態と原因

睡眠時無呼吸症候群の発生には、気道確保に関与した筋緊張の低下と咽頭の解剖学的バランスが関与する。

アンチエイジングと口腔内環境との因果関係

アンチエイジングとは？

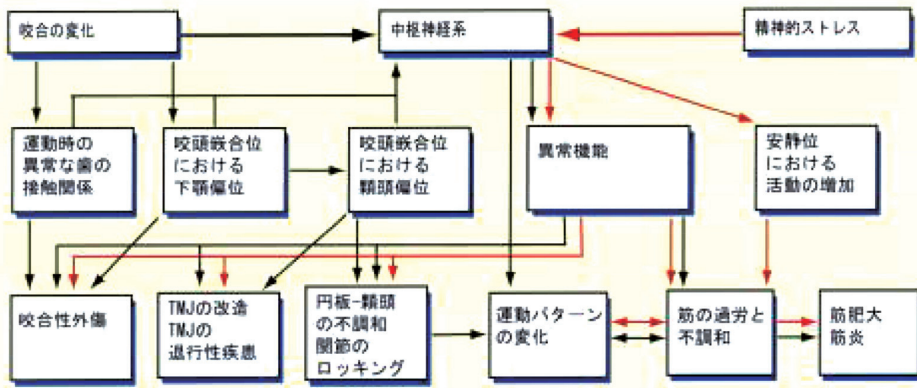
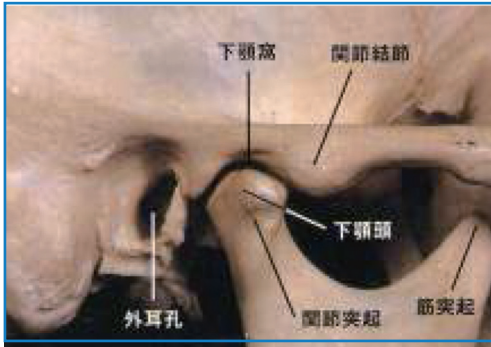
抗老化のことである。見た目の若返りだけを目的とするのではなく、基本は体の中からの若返りである。細胞レベル、分子レベルの若返りが根本的な課題となり、アンチエイジングの中心的な役割を果たしているのはミトコンドリアである。

さらに、ミトコンドリアは糖質、タンパク質、脂質の代謝をつかさどり、そのエネルギーをアデノシン三リン酸(ATP)や熱に変換、健康や老化の問題に関連がある。

■ミトコンドリアの機能

ミトコンドリアの主要な機能は電子伝達系による酸化的リン酸化によるATPの産生(ATPのリン酸化)である。細胞の活動に必要なエネルギーのほとんどは直接あるいは間接的にATPの形で供給される。ステロイドやヘムの合成などを含む代謝やカルシウムや鉄の細胞内濃度の調整、細胞周期やアポトーシスの調整にも関与している。※すべてのミトコンドリアがこの機能を担っているのではない。

顎関節部の骨学的解剖



顎口腔系における機能障害のメカニズム (Mongini による図を改変引用)

ミトコンドリアの働きを阻害するものとして、カロリー過剰、有害金属(水銀、鉛など)炎症、トランス脂肪酸(マーガリン)など。また、ミトコンドリアの働きを活性化するものとして、カロリー制限、運動、SOD (Super Oxide Dismutase)、カタラーゼ、グルタチオンペルオキシダーゼ、レスベラトロール(葡萄の皮、ピーナッツの薄皮)などがある。

アンチエイジングを咬合関係と口腔内容積にスポットをあてて、一般歯科臨床に、どのように応用するかを検討

咬合疾患と咬合異常の要因として、顎位の不均衡、不正咬合、口腔内容積の減少が考えられる。咬合関係の改善として、①咬頭勘合位と顎頭安定位②咬合内容積③口腔内容積の獲得の観点から臨床応用をする。

■顎関節解剖

現代人の顎骨の劣成長は様々な分野において身体に悪影響をおよぼしている。咬頭勘合位が本当に安定しているか否かを診断するうえで基礎学的知識は有用である。

各先生の臨床症例など詳しくは、日本臨床アンチエイジング研究会の会員専用HPでご覧になれます。